

## 議 事 録 ( 概 要 )

件 名	第5回米子駅周辺活性化連携会議		
日 時	令和5年11月27日(月) 午後3時～午後4時30分	場 所	米子市福祉保健総合センター(ふれあいの里) 4階 中会議室1・2
出席者	別紙 出席者名簿のとおり		

### (協 議 概 要)

#### 【部会報告等】

- (1) 駅周辺整備検討部会について(米子市から報告:資料1)
- (2) 駅周辺活性化検討部会について(米子市から報告:資料1)
  - ・質疑、意見なし。

#### 【議事】

##### (1) 米子駅北広場整備について(米子市から報告:資料2)

- ・関係機関との調整が概ね終わり、北広場の第1次整備を今年度中に着手予定としている。コンビニエンスストア跡地は新たな滞留空間としての整備を考えているが、具体的な利活用等については引き続き皆さん方と一緒に検討・協議させていただきたい。(市:伊澤副市長)
  - ➡コンビニエンスストア跡地の仮囲いは本日でほぼ撤去され、年内には復旧が終わると考えている。この場所は駅から出たところで非常に良い場所であり、憩いの場としての活用が良いと思っている。ベンチ等をどのように設置するかなど、我々も一緒になって検討していきたい。(JR:和田副支社長)
  - ➡コンビニエンスストア跡地については、米子の玄関口であり、記念撮影ができるような場所にしていきたい。また、待合所や横断歩道新設についてもより詳細な検討をお願いしたい。(商工会議所:森田専務理事)

##### (2) がいなロード、米子駅新駅舎完成記念イベントについて(米子市から報告:資料5、6)

- ・たくさんのイベントを実施していただき、非常に多くの誘客を図ることができた。一方で駅前周辺が賑わった結果、店舗が非常に忙しく、歩道空間の利活用まで手が出ない様子だった。逆にそれほど賑わっている状況が発生しているのは、1つの成果ではないかと考えている。だんだん広場の有効活用については、引き続きの課題である。(市:伊澤副市長)
  - ➡7月から多くのイベントが開催され、新たな人の流れができた。「歩いて楽しいまち」がどういうものか、随分と浸透したのではないかと。これが今年度限りではなく、来年度以降も繋げていくためには民間事業者や多くの方との連携で盛り上げていくことが必要。これからも一緒になってやっていきたい。(県:中原西部総合事務所長)
  - ➡コロナ明けだったこともあり、米子駅も想定以上のお客様が来られて、新駅舎の店舗も計画以上の売り上げが続いている。また、学生が通学でがいなロードを歩いて駅に滞留されたり、子供連れの方がわざわざ駅に来て列車を見たり、生活での利用が非常に増えてきたという感覚を持っている。鉄道については、7月29日から9月末までで米子駅から100キロ以内の利用が対前年で40%程度増えてきており、一定規模の人流が出始め、我々としても非常に感謝している。(JR:和田副支社長)
  - ➡商工会議所も3件イベントを実施したが、大変盛況だった。よなごバルでは歩道に本部を設置し、スタンプラリーの抽選や振る舞い酒を行った。現況の歩道では歩行者のための幅員が

不足することから、道路管理者である鳥取県と交通管理者である警察と協議し、合計で1メートルぐらい車道を占有して、本部を設置した。今後の取組の1つの試みになったと思う。今後も協議をしながら続けていきたい。(商工会議所：森田専務理事)

➡確かに米子駅の利用者が増えている実感を持っている。ぜひこの流れをJRともしっかりと相談しながら取組を続けていきたい。また、例えば駅前通りの3車線化はハードルが高いが、部分的に占有することが可能であれば、今後の取組の選択肢の1つとして検討することができる。(市：伊澤副市長)

➡来年はがいなロード1周年記念、令和7年3月は新米子市20周年を迎えるので、その関連イベント等をどんどん実施していきたい。(市：八幡総合政策部長)

### (3) 米子駅周辺の活性化について

#### ①だんだん広場について(米子市から報告：資料7)

・本市で管理移管を受けたので、引き続き立地の特性を活かした活用に努めていきたい。複数の業者や周辺の店舗から植栽を剪定して欲しいとか、椅子やテーブルがあれば良いという声を聞いている。今の許可基準の緩和を続けていくかは議論が必要であるが、何らかの形で緩和をすることも選択肢ではないかと考えており、検討していきたい。(市：伊澤副市長)

➡だんだん広場はポテンシャルのある広場であり、「どうぞ使ってください」ではなく、ある程度牽引していく必要がある。また、民間事業者からの要望に耳を傾けて、できる限りの緩和をしていただけたら使いやすくなると思う。(商工会議所：森田専務理事)

➡だんだん広場は駅前の非常に利便性の高い場所にあり、鉄道利用の方はアクセスが容易であるが、自動車でのアクセスには若干の弱みがあり、集客的には有利な場所とは言えない。駅前のコンビニエンスストア跡地の滞留空間に何か行きたくなる仕掛けをするなど、文化ホールや米子駅、だんだん広場をどう繋いで人の流れをつくるのかといった工夫が必要になってくる。(市：伊澤副市長)

➡管理部署は都市整備課だが、本市の課題として受け止めさせていただく。1部署だけではなく、本日は関係部長が3人出席しているので、この3人の部長が責任を持ってだんだん広場の活用について考えていきたい。(市：八幡総合政策部長)

#### ②駅南の活性化について(米子市から報告：資料3、4)

・市道米子駅目久美町線の整備は既に工事が始まっており、来年度の完成に向けて整備を進めたい。また、令和8年度末に完成予定である東山公園内の新体育館を鳥取県と一緒に整備する。現在、米子駅南口と新体育館を結ぶ歩行者動線の検討を進めているところである。既存の道路を利用すると3つのルートに絞られるが、それぞれで一長一短がある。人の流れをつくっていくという視点で、様々なインフラ整備を進めていきたい。(市：伊澤副市長)

➡駅南側の当社所有の土地については、今後の活用を検討している。駅への接続については、南側が便利であると考えているが、一般車での活用も南側より北側に動線が向いており、まだルートを変えるところまでは至っていない。また、南側にタクシー乗り場ができているが、そこにタクシーがないことがあるので、南側にビジネスチャンスがあるということを皆さんと一緒に訴えていきたい。(JR：和田副支社長)

➡駅の南側に新たな玄関口ができたので、それにふさわしい土地利用ができるように、都市計画による誘導を考えていただきたい。また、がいなロードが完成して新たに県と市とJRでどのようなものを目指していくのか考えるべきだと思う。県の役割がはっきりしないように思

うので、もう少し積極的に関わりを持って良いのではないかと。県管理河川や県道もあるので、積極的に考えれば何か出てくると思う。一体となってやっていけば、必ず素晴らしいまちづくりができると思う。(商工会議所：森田専務理事)

- ➡県も消極的ではなく、積極的に関わろうという意欲はある。検討部会で意見をいただいた県道から市道米子駅目久美町線への入口がわかりにくいことについても対応を検討しているところである。また、新体育館への歩行者の動線については、安全で快適なルートであるべきだと思う。このメンバーも含めて一緒に道を辿り、何が一番良いのか検討させていただきたい。(県：中原西部総合事務所長)
- ➡新体育館への動線など道路の件については、これまでも米子県土整備局と話をさせていただいている。しかしながら、この場でまだ成果を出す段階ではないということをご理解をいただきたい。(市：八幡総合政策部長)
- ➡南側のタクシー乗り場の問題については、現在、南側のタクシー乗り場とがいなロードのエレベーター乗り場付近に各タクシー会社の電話番号を掲示して、直接電話をしてもらえような対応をしているところ。都市計画による誘導については、今のJRの土地活用などと歩調を合わせながら、進めていきたい。(市：都市創造課)
- ➡提案のとおり、ぜひ駅南の現地検討会をしたい。また、駅南にタクシー乗り場があるのにタクシーがないことに対しては、とりあえずタクシー会社の電話番号を貼って対応しているが、目立たないので非常にわかりづらい。タクシー会社に聞くと、台数が限られた中で北口よりもお客さんが不安定なところにタクシーを1台待機させることは、非常に難しいとのことだった。何か良い仕掛けができないか、今の対応が最終的なものではなく、引き続きできることを考えていきたい。(市：伊澤副市長)

### ③令和6年度の歩いて楽しいまちづくり関連事業について(米子市から報告：資料8)

- ・来年度の予算編成に向けた作業を進めており、予定も含めてお示ししたところである。本日お集まりいただいた皆さん方をはじめ、多くの関係者の協力が必要である。市道米子駅目久美町線も部分的に完成し、角盤町のアーケード整備、本通りはアーケード撤去などが進んでいく。ウォーカブルというキーワードによって、まちの姿がだんだん変わっていく。問題は工事をすることが目的ではなく、その後のまちづくりに向けてしっかりと進めていくということである。(市：伊澤副市長)

- ➡米子港、駅南の整備やアーケード撤去などもあるが、その他のものも全体の賑わい作りとしてぜひ一緒にやっていきたい。この4者だけがやるのではなく、米子の土壌として市民の皆さんが主体的に様々な活動をしているので、それらを上手く活かすような支え方を県としてもやっていきたい。また、駅前通りの活用については、3車線化を睨んだ場合、どう道路を活用していくかである。実証実験で少しずつ試してみるのが現実的だという話もあったので、県としても協力を惜しまずにやっていく。安全性の確保だけは譲れないが、それを除いては全面的に協力していきたい。(県：中原西部総合事務所長)

## (4) その他

### ①その他の取組について

- ・「歩いて楽しいまちづくりシンポジウム」を開催したが、大変良い会だったという評価をいただいております。私も良い会になったと思っている。その第2弾として、市民の皆さんにも自分事として、米子の魅力を発見していただき、あるいは米子の未来を考えていただくことをワークシ

ョップという形で開催する。今、本市がやろうとしていることを受け止め、理解していただきながら、「自分だったらこんなことも考える」といった意見をいただくことが有効だと思っている。北広場の整備も今年度着手するので、現状の整備が進みつつある姿や、その次に検討していることも少し盛り込みながら、市民に向けてパブリックコメント的なことを年明けぐらいにでもやってみたい。整備は都市整備部であるが、利活用は総合政策部や経済部も含めて、3部署で相談して検討すれば整備後の利活用の促進にも繋がるのではないかと思う。また、「おさんぽクエスト」については、第1弾は米子駅から米子城跡までだったが、今度は米子城跡から朝日町までの動線が繋がるものである。このような提案型の情報発信にも努めていきたい。(市：伊澤副市長)

➡来年の10月19日から22日まで開催されるねりんピックは、シニアの国体のようなイメージで、1万人以上の選手が鳥取県に来られる。通常、県庁所在地1ヶ所で開催して終わるとするのが先催県の開催パターンであるが、鳥取県は全市町村で開催する。特に西部で開催するものは多く、米子市でも7種目の大会が開催され、メインイベントの1つである「地域文化伝承館」が米子コンベンションセンターで開催される。米子市以外の開催種目についても、多くの方がこの米子市を経由して各地域に行かれると思う。大会自体は全体で100億円の経済効果があると言われている。試合が終わった後はゆっくりと観光し、買い物をして、宅急便などでお土産を送って帰るというようなパターンが想定できるため、ぜひこれを米子市を中心とした周辺の賑わいづくり、経済の活性化に活用できるようにしたい。この「おさんぽクエスト」のような資料も活用させていただきたいと思う。(県：中原西部総合事務所長)

➡残念ながら、「おさんぽクエスト」には鉄道が入っていない。市民の皆さん方に駅周辺だけではなく、もっと幅広くまちなかを歩いてほしいということであれば、境線は500メートルぐらいで駅があるため、非常にマッチする。バスも含めた公共交通を組み合わせた見せ方も、ぜひやっていただきたい。また、弊社のDXの取組で「WESTER」というアプリを整備しているが、9月から「米子市探訪デジタルスタンプラリー」を行い、約3,700人の登録があった。このような取組は有効だと思っており、楽しく利用してもらえよう「おさんぽクエスト」の中にもスタンプラリーなどを盛り込んではどうか。(JR：和田副支社長)

## ②今後の連携会議について

- ・インフラ整備はまだまだ続くが、それらを使ってまちをどう変えていくかに重点を置いた4者の連携会議に変えていく必要があるのではないか。「米子駅周辺」をどこまで対象としていくか議論の余地があると思う。米子港の整備なども進み、後藤駅周辺まで視野を広げた議論が今後必ず必要になってくる。歩くことと公共交通に乗ることをうまく組み合わせてしていくことをより具体的に検討していく必要がある。また、どのようなまちづくりを推進していくのかは、プレーヤーである事業者の皆さんの目線や利用者の市民の目線も重要であるため、より柔軟性の高い会議を検討していく必要がある。開催の時期や方法についても柔軟に考えることを皆さんと相談しながら進めていく必要があるのではないか。(市：伊澤副市長)
- ➡提案のあった内容について異論はない。積極的に進めていってもらいたい。エリアについても賛成であり、メンバーについても様々な形で工夫しながら会議を開催すれば良いと思う。(県：中原西部総合事務所長)
- ➡米子市を俯瞰したときに、鉄道は境線と山陰本線と伯備線で4方向に十字の形で動いている。このようなエリアは、他ではおそらくない。それを「おさんぽクエスト」のようにエリアを絞り込んだときにどのようにしていくか、見える化したものを使ってご意見をいただきながら、

一緒になって取り組んでいきたい。(JR：和田副支社長)

➡今後の連携会議のあり方について、全く異存はない。今後の連携会議を進めるにあたり、民間事業者や市民の中で「歩いて楽しいまちづくり」とは何なのか、あまり理解されていないのではないかと。この取組を進めていく上でできるだけ早い時期に、目指しているものがわかるものを作る必要があるのではないかと。資料8のような図面では、どう人を動かしていくのか、何を使って人を動かしていくのか、何を使って人が来るのかがわかりにくい。その中で、移動手段がバスを含めた公共交通機関と歩くということにどうしても違和感がある。自動車をどう絡めていくかということ議論しないと、なかなか交通の問題は解決しないのではないかと。(商工会議所：森田専務理事)

➡そもそも何を狙っているのか、どんな将来像を描いているのかを見える化したものが必要だということご指摘は以前からいただいている。そこに対して十分に対応できていないということだと思う。何が目的なのか、どのような人の流れをどう作ろうとしているのかを文字ではない形で表せると良いと思う。また、多くの方は実際には自動車移動している。そこを無視して公共交通の話だけをしても、結局は大きな人の流れを整理することにならない。具体的には駐車場の問題、そこから公共交通で動くことを想定するのも我々は課題意識を持っているので、もう少し取組を進めたい。いずれにしても、この会議体を中心にこのような意見も出しながら、しっかり進めていきたい。(市：伊澤副市長)